平成２６年度 西部中学校　学校便り　第１１号

り　ん　ど　う

平成２７年２月１０日 発行

☆　学校自己評価と学校関係者評価　☆

平成２６年度の学校自己評価のまとめができましたのでお知らせします。

Ⅰ　学校自己評価

１　前年度までの成果と課題，学校の現状

○　昨年度から「心を開き，身体を拓き，自ら啓く」を全校研究テーマとし，「問いを発する生徒の育成」を目指し，「適切な言語活動」を授業に位置付ける授業形態が定着してきている。また，３年間を通した「キャリア教育の推進」の中核として２年生職場体験学習を昨年度から３日間の実施とし，大きな成果を上げることができた。
○　難聴学級の開設に併せて，施設の整備や職員の研修と共に，生徒の人間関係力・コミュニケーション力を高めることに取り組んできた。学校長による生徒との面談，不適応生徒へのチーム支援などにより成果を上げることができた。一方で SNS 利用の問題点などの課題も残されている。
○　「美しい姿勢作り」をテーマに取り組んできた健康教育では，校友会の保健委員会を中心にした「姿勢週間」などの日常の取組と共に，教育課程研究協議会において全校集会という形で発表した。昨年度から取り組んでいる縦割り清掃では，異年齢交流を進める上で一定の成果が上がっているが，責任者の役割などの課題も残されている。また，朝部活に対する取組を含めた部活動のあり方については引き続き検討を進めている。
○　昨年度末から進めてきた HP の改訂により，地域への情報発信を今まで以上に充実させることができた。災害時の引き渡しなど，緊急時における学校の対応について検討を進めている。地域公開講座の開設について公民館と連携をとり，地域の方を講師とした講座を増やすことができた。

２　今年度の重点的な取組

具体的な取組	今年度の成果	自己評価	次年度に向けた課題と解決の方向性
○　「志」 ～ともに学び，思考・判断・表現力を培う～ ①　子どもが問い，子どもが答える授業展開の工夫。 ②　「働くこと（自己の生き方）」について追究するキャリア教育の推進。	①　「適切な言語活動」を授業に位置付ける授業形態は定着してきている。また，各教科において「表現力」を高めることを課題として授業展開を工夫してきた。 ②　２学年における職場体験学習を中核とした３年間を見通しての「キャリア教育」のカリキュラムの検討を進めてきた。	B	①　「ねらい→めりはり→見とどけ」の流れと板書計画の一層の充実を図るとともに，生徒理解を兼ねた「授業を見合う会」を定期的に実施していく。 ②　職場体験学習の３日間の実施を今後も継続していくための校内体制の整備・引き継ぎを確実に行っていくと共に，３年間を見通してのキャリア教育の実践を積み重ねていく。
○　「恕」 ～自立・自律と共生の精神（心）を育む～ ①　特別支援教育を中核に据えた人権尊重と相互理解の基盤作り（難聴学級の開設）。 ②　不適応生徒へのチーム支援，保護者の会（つぼみの会），学習相談・教育相談体制の一層の充実。 ③　異文化理解学習の全校生徒への広がりと日常化(「トルコとの交流」の継続)。	①　難聴学級の開設に併せて，施設の充実や職員研修を行うとともに，相互理解の基盤作りとして定期的にエンカウンターを実施した。 ②　学校長による教育相談を実施するとともに，不適応生徒へのチーム支援，保護者の会（つぼみの会）により，状況の改善が見られてきている。また，Q-U 検査の活用，定期テスト前の「学習相談」を実施した。 ③　今後も継続していけるように交流のあり方の見直しを行いながら，トルコへの訪問を実施した。また，２学年において「オリンピック教室」を実施した。	B	①　難聴学級だけでなく，特別支援学級でのカリキュラムについて更に検討を進めていく。 ②　個に応じた支援のあり方については，外部機関との連携も含めて検討を進めていく。また，学習相談に関して年間を通して計画的に取り入れていく。 ③　トルコとの交流に関しては，今後も継続していけるように相互の負担軽減を含めて更に検討を進めていく。
○　「誇」 ～心身と社会力・人間力を鍛える～ ①　「美しい姿勢作り」をテーマにした健康教育への取組。 ②　全校縦割り活動を取り入れた異年齢交流の推進(清掃・音楽・集会・応援)。 ③　人間力の育成に力を入れた部活動の推進。	①　保健委員会による「姿勢週間」や全校集会での取組の様子を教育課程研究協議会において発表したことで，姿勢に関する意識を高めることができた。 ②　縦割り清掃を含む様々な活動において，学年の枠を越えての取組を実践することで，先輩としての自覚を持たせることができた。 ③　朝部活のあり方を中心として，中学生期における部活動のあり方の検討を進め，来年度の方向を探ってきた。	B	①　姿勢作りについて今後も日常活動の中に取り入れていくとともに，「五訓」の徹底を中核とした学校生活の見直しを行っていく。 ②　校友会の活動を前面に出しながら，より多くの場面において異年齢交流の推進を進めていく。 ③　保護者を含めた「部活動あり方検討委員会」を定期的に開催し，活動時間を中心に検討を進めていく。
○「家庭・地域と共に」 ～学校を核とする，多様で知的な地域コミュニティの創造～ ①　信頼され，地域に開かれた学校づくり。 ②　生徒の学びを共に支えるＰＴＡ活動。地域を題材に，共に学ぶための地域連携。 ③　生徒の学びと育ちを連続的に支える保小中高大の連携。	① HP の改訂を行い，情報の更新を定期的に行うことができた。 ②　公民館との連携を行うことで地域公開講座における地域との連携を深めることができた。 ③　避難訓練の合同実施，学習チューターの実施，長商デパートへの参加などで連携を深めることができた。	B	①　「安全安心ネット」の活用を含めて，緊急時の正確で迅速な情報伝達の方法を検討していく。 ②　緊急時避難場所としての学校のあり方を明確にしていくとともに地域との連携を一層深めるための運営委員会を組織していく。 ③　保小中高大の連携の実践を今後も積み重ねていく。

3　保護者や地域との連携の成果と課題

○　ＰＴＡ活動における保護者負担の軽減を進めることができた。来年度はＰＴＡバザーにおける生徒の参加についても検討を進め，開催日時等を決定していく。
○　公民館に依頼することで地域公開講座の外部講師を増やすことができた。保護者の参加を増やして行くために，開催日時等を検討していく。
○　緊急時の生徒の引き渡し方法，情報伝達の仕方をより明確にしていくとともに，緊急時避難場所としての学校のあり方を明確にしていく。

4　学校生活全般について

○　１学年のキャリア教育（進路学習）を充実させるため，２学年で実施してきた松代見学を来年度から廃止する。その他これまで行ってきた行事の見直しを含め，総合的な学習の時間の３年間のカリキュラムの検討を進めてきた。キャリア教育を中核とした３年間のつながりを意識した取り組みを進めていく。
○　変化や改善の見通しが見えつつあるものもあるが，不適応生徒に対する対応が本校の大きな課題である。教育相談，Q-U 検査等の活用に併せて外部機関との連携を進めていく。
○　「学習の手引き」をもとにして，家庭学習への取組の改善を図ってきているが内容，量を含めて取組の見返しをしていく必要がある。チャレンジ問題，クリア問題の使い方，学習相談の実施などを含めて確かな学力の定着を図るための取組を進めていく。

Ⅱ　学校関係者評価(学校評議員の皆様からの意見です)

1　前年度までの成果と課題，学校の現状

○　社会に出て役立つ人間形成を目指すグランドデザインは，長年の議論を重ねて作りあげたものだと思われるが，随所に広範な取組が見られ，今後の大きな指針となることである。学習のみならず，細やかに生徒に気が配られている。
○　挨拶やコミュニケーション力の育成に力を入れている校友会の役員に大変頼もしさを感じた。人間教育は，学力にもつながるはずである。今後も引き続き力を入れていって欲しい。
○　規範意識は上意下達でなく，生徒ひとり一人が熟慮，理解して主体的な取組を積み上げていけば西部中の更なる前進と，伝統の礎になることと確信している。

2　今年度の重点的な取組

○　子どもの発問に答える授業体制を作っていることは，進んで学ぶ生徒の育成につながる。今後も引き続き取り組んでいって欲しい。
○　『中学校（の中の社会，建物)』という閉じた空間だけでなく，早くから世の中のこと，仕事や人間関係のことを垣間見ることは貴重な体験となる。郷土愛，郷土の誇りにもつながる。
○　中学時代からの異文化交流は効果が高い。海外へ目を向けることも貴重な体験となる。トルコとの交流も継続していって欲しい。
○　階段等各所に姿勢に気をつける標語を見かけた。よい姿勢，習慣を身につけることで人間力を鍛えて欲しい。
○　部活動への姿勢はそれぞれで異なる。朝部活がなくなって残念に思う生徒については，その意欲を削がぬようにすることが必要になる。一方で，生徒全般の年齢に相応しい睡眠時間の確保のため，部活動，家庭学習，家庭事情，SNS など，総合的な議論と対応が必要になる。

3　保護者や地域との連携の成果と課題

○　常に地域社会に対する関心を高めようとする学校の方針を高く評価したい。その一方で，中学生，高校生の時代には，社会よりも仲間との時間を重視したいと考える面もある，社会への興味を持たせつつ，しかし実生活，実空間における仲間との関係も大切にするバランスが肝要である。
○　地域との連携においては，コーディネーターが大切である。人と人との交流からやる気のある方の輪を更に広げていって欲しい。

4　学校生活全般について

○　青少年時代の友人，仲間は人生の停留になる一生の宝である。校友会新役員のコミュニケーションを大切にする方針は素晴らしい。全生徒と友だちになれるよう願っている。
○　校友会の役員が学校評議員会に参加し，懇談の機会を設けていただいたことに，地域の代表として感謝したい。将来の進路を見据えて，目標に向かって頑張ろうとする意気込みを感じることができた。生徒たちの自主的，主体的な行動を見守り，成長できるように力添えをしていって欲しい。また，『挨拶運動』は地域に活気と光明を与えてくれるものと信じ，期待している。

5　その他

○　懇談した校友会新役員は，礼儀正しく，敬語もきちんと話すことができ，素晴らしいと感じた。早期の外国語教育も話題になっているが，語学の基礎は母語にある。成人前に読書を通して身に付く母国についての歴史，文化，文法等，多岐にわたる教養は，人間形成に大きな役割を果たすと信じている。今の時代に難しいことではあろうが，ぜひ読書の楽しさ（学習の楽しさと同じように）を知って欲しい。

☆今年度の学校自己評価やアンケート結果，いろいろの機会でいただいたご意見を来年度の西部中の教育に生かしていきたいと思います。なお，今回の学校便りをお読みいただき，ご意見等ありましたら学校までお知らせください。